

補足資料2 情報モラル教育授業実践報告

(1) 授業実践報告1

対象学年	小学校 3年
領 域	学活（気持ちのキャッチボール・学級の諸問題）
指導項目	発信する情報や情報社会での行動に責任をもつ 相手への影響を考えて行動する

情報モラル指導モデルカリキュラム (<http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html> 参照)

指導分野	情報社会の倫理		
コード	a2-1	指導事項	発信する情報や情報社会での行動に責任をもつ 相手への影響を考えて行動する

授業前の 児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になると、周りの仲間のよさや問題点などを捉えたり、自分なりの意見・考えをもったりするようになる。しかし、自分に対しては見方が甘く、自分がどうあるべきかよりも、自己の感情を優先させることが多い。 ・インターネットのような相手の顔が見えない状況では、自分の感じたことを感情のままに表現したり、刺激的・攻撃的な言葉で表現したりする傾向がより強くなる。 ・マナーに対して「気持ちがよいから」「みんなのため」など、肯定的な意見をもっているが、周りから与えられた言葉を引用している場合が多い。
期待される 児童の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんな自分でいたいのか」「どんな友達が作りたいのか」を考えさせ、客観的に自分を見つめさせることにより、他の人を傷つける言葉を使ったり、悪口を言ったりしてはいけないという意識を高める。 ・「目指すべき自分」の姿を考え、自分の言動をコントロールできる児童の育成を目指す。また、インターネット等の情報社会でのモラル意識の高揚を図る。
児童の変容を 促すための 授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・「悪口」も「マナー」も、子どもたちの日常生活に存在している。子どもたちの学校生活の問題とインターネット上での問題では、内在する原因に共通点のあるものも多い。資料等を共感的に扱う。 ・自分たちの日常場面では、寛容になりがちな児童も、インターネット上の問題のある場面では「ひどい」「してはいけないこと」と共感的に捉えることができると予想される。その場面を比較・検証することにより、日常生活でも問題意識を強く感じさせるようにする。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材 情報モラル教育支援ソフト 「事例で学ぶNetモラル」 B-02 「掲示板を使うときに気をつけること」 玉川大学 教授 堀田龍也 企画・監修 ・ワークシート 「事例で学ぶNetモラル」内指導資料 ・文部科学省「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」リーフレット ・スライド 愛知エースネット「人の気持ちを考えて使っていますか」 ・グラフ ①警察庁広報資料 「サイバー犯罪の検挙件数の推移」 ②「ネットいじめ認知件数」

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導入	10分	1 テーマ「言葉」について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激的・攻撃的な言葉が多いことを確認する。 ・インターネットの世界では、表現がエスカレートしやすいことと、その理由を確認する。
		2 けんかをしたときの自分の言葉遣いについて発表する。 「バカ」「近寄るな」など	
3 刺激的・攻撃的な言葉をよく使う人について考える。 「嫌だ」「一緒にいたくない」など			
4 インターネットの掲示板の例(カード)を紹介し、感じたことを発表する。 ○掲示板の例：ウザいんだよ！・みんな無視な！ など 「怖い」「嫌だ」など			
展開	25分	5 映像クリップを視聴する。 「事例で学ぶNetモラル」 B-02 「掲示板を使うときに気を付けること」	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・ワークシートに記入させたものを基に、話し合わせる。 ・書いた人・読んだ人・先生のそれぞれの立場で考えさせる。 ・他の人の立場になって考えることの大切さに気付かせる。 ・複数の児童の意見を発表させて視野を広げた後、各自でワークシートに記入させる。 ・日常生活との共通点をつかませる。被害者にも加害者にもなり得ることを確かめる。 ・ネットいじめの認知件数が、年々増えていることを伝える。
		6 書き込みに気付いた女の子の気持ちについて話し合う。 「ひどいことをするひどい学校と思われてしまう」「意地悪な人がある」「同じ学校として、嫌だ。恥ずかしい」	
		7 他の学校で三人の書き込みが発表されたときの気持ちを話し合う。 「こんなひどい言い方をするなんて…」「いやな学校。許せない」「相手の学校の先生は何をしているのだろう」	
		8 掲示板に書き込むときに、気を付けなければならないことを考える。 「嫌がらせや意味のない言葉を書くのはマナー違反です」「読む人の立場になって、丁寧な言葉を使いましょう」	
まとめ	10分	10 自分の使う言葉について、気を付けることをまとめる。 「日頃から、悪口や相手の人が傷つく言葉を遣わない」	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活とインターネットの世界との共通点を確認しながら発表させる。 ・礼儀正しい言葉・気持ちのよい言葉を遣って、安心して生活できる学級・学校にしていこうと働きかける。
		11 本時のまとめをする。	

授業の成果	<p>児童の興味・関心は高い。情報モラルに対する知識も年々高まりつつあると感じる。刺激的・攻撃的な言葉への反応も大きい。その中で、インターネットでのトラブルを扱うことにより、「絶対にしてはいけないこと」として共感的に扱うことができる。刺激的・攻撃的な言葉に対する反応に変化が見られ、授業の中で児童のモラルや情報モラルに対する意識を高めることができる。</p> <p>既存の教材の中には、指導案や学習プリント等も整備されているものもあり、準備にそれほど時間はかからない。本時は、指導案を基に、その前後に日常のモラルに関わる内容を加え、その時間帯で使う資料の準備をした程度である。</p>
改善と授業の課題	<p>情報モラルと日常のモラルの両立を図ることを意識しながらの授業展開は、日常のモラルに対してのまとめがおろそかになりやすく課題が残る。しかし、他の情報モラルの学習内容でも同様の展開ができることが多く、情報モラル教育の授業展開の基本的流れとすることで、授業実践の回数を重ねるごとに、課題は解消されると考える。</p>

(2) 授業実践報告 2

対象学年	小学校 5年生
指導時間名 教科名	その他（特別活動）
指導項目	

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html 参照)			
指導分野	情報社会の倫理		
コード	a3-1	指導事項	他人や社会への影響を考えて行動する

授業前の 児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になり心身ともに大きく成長しつつあるが、まだまだ幼い面も多く残されている。 ・情報機器を扱う機会は増えており、日常生活においてコンピュータやタブレット端末、スマートフォンを使う児童の割合が増えてきている。また、家庭生活においても自由に行動できる機会が増え、連絡手段として日常的にSNSを利用している児童もいる。 ・アンケートを通して、将来自分の情報端末を手に入れた際には、SNSを利用してみたいと考える児童がかなり高い割合を占めていることが分かった。
期待される 児童の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を利用することで、さまざまな情報を得ることができ、更にSNSを介して他者と連絡を取り合うことも可能となる。そのような状況において想定されるトラブルを知り、相手の立場や気持ちを思いやることの大切さを考えることで、上手なSNSの利用の仕方について学ぶ。
児童の変容を 促すための 授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の所有率、SNSの利用状況、SNSでのトラブルの有無等をアンケート調査により把握するとともに、児童に調査結果を伝える。 ・大型テレビを活用して、SNSを利用する場面を実際に提示することで、興味をもって話し合いに参加できるようにする。 ・導入部分において、情報モラル指導教材「大人からは見えないネットの世界 みんなで何を話していますか?」を活用し、自分ならどうするかを考えさせながら活動を進める。 ・話し合いの場面において、付箋紙を利用してグループで話し合いを進めることにより、積極的な意見の交流ができるようにする。 ・グループの意見を「宣言」の形にまとめ、学級内に掲示することで、情報モラルに対する意識を高められるようにする。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県総合教育センター 情報モラル指導用プレゼン教材 http://www.aichi-c.ed.jp/contents/j_moral/materials/presenhome.html 「みんなで何を話していますか?」

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	8分	1 SNSを実際に使用する様子を見て、どのようなものなのかを知る。 2 アンケートの調査結果を見て、スマートフォン等の所有率やSNSの利用状況、SNSでのトラブルの有無について知り、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを2台用意し、SNSを実際に使用する様子をOHCで大型テレビに提示する。 5年生全体に実施したアンケートの結果をグラフにまとめ、大型テレビに提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">SNSでのやり取りで気を付けることを考えよう。</div>			
展開1	12分	3 情報モラル指導教材「大人からは見えないネットの世界 みんなで何を話していますか？」を見る。 4 教材の事例の問題点を考える。 (1) 登場人物とその関係を確認する。 (2) どうしてトラブルになったのか考える。 (3) タケちゃんの気持ちを考える。 5 情報モラル指導教材「大人からは見えないネットの世界 みんなで何を話していますか？」の解説を見る。	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションに説明を補足しながら提示する。 登場人物の関係を黒板に提示し、確認することで、その後の発表がスムーズに展開できるようにする。 タケちゃんの立場になって考えることで、ネットいじめの深刻さについて理解できるようにする。 プレゼンテーションに説明を補足しながら提示する。
展開2	20分	6 グループで意見を交流し、宣言にまとめる。 (1) SNSでのトラブルが起きないようにするため、自分でできることを考え、付箋紙に記入する。 (2) グループの司会者と発表の順番を決定する。 (3) 付箋紙を一人ずつ小型ホワイトボードに貼り、自分の意見をその理由とともに発表する。 「いじめになるので、悪口は書き込まない。」 「さっきの話のように無視をしてはいけない。」 「誤解されるので、会ってきちんと話をする。」 (4) 同じ内容や似ている内容ごとに付箋紙をまとめ、その内容を表すタイトルを付ける。 (5) 最も意見の多かった内容を基に、グループの意見を宣言にまとめる。 7 グループの宣言を発表する。 「SNSでも悪口を言いません。」 「SNSだけでなく、会って直接話をします。」 「SNSでも友達を無視しません。」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを簡単な言葉で記入し、できるだけ多くの付箋紙に記入するよう指示する。 子どもたちがリラックスした雰囲気話し合いに入れるようにする。 付箋紙に記入してある簡単な言葉を基に、自分の意見をできるだけ詳しく発表するよう促す。 グループの全員で協力して作業するように指示する。 付箋紙の数が多き内容を中心に、宣言をまとめるよう指示する。 司会者は、グループの宣言を理由とともに発表するよう指示する。 話し合いで用いたホワイトボードは黒板に貼り、全体に見えるようにする。
まとめ	5分	8 本時のまとめを聞き、ワークシートに活動後の感想を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> SNS利用の注意点を大型テレビに提示し、読み上げる。
授業の成果	<p>導入の場面において、SNSを実際に利用して見せたことで、児童の興味・関心を高めることができた。また、話し合いの場面では、付箋紙に個々の意見を記入し、それを基にホワイトボードを利用してまとめる方法を取り入れた。ふだんは意見を発表できない児童も、自信をもって話し合いに参加することができており、効果的であったと感じた。</p>		
授業の課題と改善案	<p>付箋紙を利用した話し合いは効果的であったが、児童が意見を書き込み、まとめる過程で時間がかかってしまい、十分に理解を深めるに至らなかった。活動方法を見直し、より効率的に活動できるよう再考する必要があると感じた。また、児童は今後、情報機器の利用が増えてくる時期であるため、計画的に、継続して指導を行う必要があると感じた。</p>		

(3) 授業実践報告 3

対象学年	中学生 2年生
指導時間名 教科名	教科指導 (技術科)
指導項目	情報に関する技術

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html 参照)			
指導分野	情報社会の倫理		
コード	b4-2	指導事項	著作権などの知的財産権を尊重する

授業前の 生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の携帯電話やスマートフォンなどの情報端末の所有率が高くなり、情報機器を用いて、日常的にインターネットを利用するとともに、SNS などのソーシャルメディアを使ってコミュニケーションを行っている。 その一方で、生徒は、不特定の人が閲覧するブログや電子掲示板、SNS 等に、自分の身近な話題を書き込むようになったため、それに伴うトラブルに巻き込まれる事例が発生している。 著作権や個人情報保護法など、情報を保護する法律やルール、情報発信のマナー等に関しては、十分な知識をもっていない生徒が多い。
期待される 生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 著作権などの権利や法律を理解し、ルールやマナー、モラルを踏まえて情報発信をすることの大切さを理解する。 情報を伝える相手を意識しながら、適切に情報を活用するための判断力を身に付ける。
生徒の変容を 促すための 授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの身近な話題で情報モラルを考えさせることにより、より実践的な問題解決能力を高める。 実習室内に設定した仮想の電子掲示板を用いることで、ふだんはなかなか発言しないような生徒も、積極的に自分の意見や考えを発言できるようにする。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教材 ネット社会の歩き方 (45. 著作権の尊重) http://www2.japet.or.jp/net-walk/ 「キューブ NEXT 4」の電子掲示板 (スズキ教育ソフト)

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	5分	1 日常生活におけるマナーやモラルの確認	・日常生活におけるマナーやモラルを考えさせることで、情報発信のマナーやモラルを考えさせるきっかけにする。
展開	35分	2 著作権に関する事例に関する協議 <ul style="list-style-type: none"> ・「著作権」に関わる事例（動画投稿に関わる事例）を見て、事例に関する意見を電子掲示板に記入する。 ・他の生徒の意見を見てグループで話し合い、考えをまとめる。 ・グループの意見を発表する。 3 著作権法の基本的な知識の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・著作権法の目的や概要、著作物の適切な利用方法、著作権法の例外規定について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のディスプレイに「著作権」の事例を映し、全員で共有する。 ・事例についてよいか悪いか、またその理由を考えさせ、電子掲示板に記入させる。 ・電子掲示板に記入された他の生徒の意見を読んで、再度、グループごとに考えさせる。 ・「ネット社会の歩き方」を使用し著作権について解説する。
まとめ	10分	4 著作権の観点から事例を考察 <ul style="list-style-type: none"> ・著作権法の観点から、今回の事例は何がいけないのか、どうすればよいのかを考え、再度ワークシートに自分の考えを記入する。 ・情報通信ネットワークで情報を発信するときに気を付けなければならないことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のディスプレイにこの時間で学習した要点を映し、ワークシートに記入させる。 ・肖像権やプライバシーなど、著作権以外についても紹介する。

授業の成果	<p>ふだんは、グループでの話し合いでもあまり自分の意見や考えを言わない生徒が多かったが、電子掲示板に自分の意見や考えを書き込んだ後にグループ協議を行うことで、話し合いが活発になった。情報機器を活用することで、より効果的な授業展開が可能になることが分かった。</p> <p>「情報モラル教材 ネット社会の歩き方」は実践しやすい内容が多いため、他のテーマも手軽に実践できると感じた。</p>
授業の課題と改善案	<p>グループでの話し合い活動を取り入れることで、他者の意見を踏まえて、視野を広げて自分の考えをもたせようとした。しかし、著作権についての説明等を伝えるために、教員の話す時間が長くなってしまい、グループでの話し合い活動の時間を十分に確保できなかったことが反省である。著作権の概要を先に学ばせ、その後、今回のように具体的な事例を取り上げ考えさせることで、より効率的に授業を進めることができると考えられる。</p> <p>生徒は著作権について知っているようで知らないことが多く、身近な事例を挙げるなどの工夫が必要だった。</p> <p>電子掲示板の使用自体が、情報発信のマナー等に関する情報モラル教育であり、今後、他の授業でも応用が可能である。</p>

(4) 授業実践報告 4

対象学年	中学 1 年生
指導時間名 教科名	特別活動（学級活動）
指導項目	社会の一員としての自覚と責任

情報モラル指導モデルカリキュラム（ http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html 参照）			
指導分野	情報社会の倫理		
コード	a4-1 b4-1	指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する ・個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する

授業前の 生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの 1/3 の生徒が携帯電話（スマホ）を所持している。 ・今後、携帯電話（スマホ）を買う予定でいる生徒が多い。 ・SNS を利用することの危険性への認識があまりない。 ・SNS をゲーム感覚で利用している生徒が多い。 ・安易に画像を撮り、SNS で公開している生徒がいる。 ・画像から個人情報が出し、自分や友達が危険に晒される可能性があることへの認識はほとんどない。
期待される 生徒の変容 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話（スマホ）には、プラス面だけでなくマイナス面があることを知り、安全に利用するためには、どのようなことを心がければよいかを考えることができる。 ・画像を安易に SNS で公開することの危険性について考え、自分や友達の個人情報が流出する可能性があることを理解することができる。 ・他人の画像を SNS に無断で公開することは、人格権や肖像権など個人の権利を侵害する行為につながるおそれがあることを理解することができる。
生徒の変容を 促すための 授業の工夫 （ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話（スマホ）のマイナス面を具体的にイメージすることができるように、携帯電話（スマホ）の利用が原因となった実際の事件の新聞記事やニュース映像を、朝の会や帰りの会の時間で、ふだんから生徒に伝えておく。 ・SNS を自分たちにとって身近なものとして捉え、その危険性について関心をもって考えることができるように、映像教材を利用する。 ・「危険なら使わなければよい」という考えを生徒から引き出し、そこから携帯電話（スマホ）や SNS の利便性を考えさせることで、最終的に「正しい使い方をすれば、便利で安全である」という認識をもたせる。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> ・『情報化社会の新たな問題を考えるための教材』 教材⑧「情報の記録性、公開性の重大さ」 https://www.youtube.com/watch?v=3I78ay61E0k&index=4&list=PLGpGsGZ31mbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywDI <p>動画の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に投稿した情報（削除したが残っている）をクラスの生徒に見られてしまう。 ・美術館で撮影した写真に作品が映り込んでしまったが、そのまま投稿してしまう。 ・学校の帰り道、仲のよさそうなカップルの写真を撮って、SNS 上に発信してしまう。

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	5分	1 イラストを見て、コミュニティサイト名を当てるクイズを行う。 2 自分たちの学級と高校生の携帯電話（スマホ）の利用実態の調査結果を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティサイトのアイコンを提示することで、興味をもたせる。 ・事前アンケートをもとに、学級の実態を知らせる。
展開1	25分	3 本時の目標を知り、課題解決の心構えをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インターネットやSNSでの投稿が他者や自分に及ぼす影響を考えよう</div> 4 動画を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリー①…情報の記録性、公開性 ・ストーリー②…情報の公開性、記録性 ・ストーリー③…肖像権、情報の公開性、記録性 5 次の点についてワークシートに考えをまとめる。 「投稿された写真は今後どうなるのか」「写真は回収できるのか」「自分の将来にどのような影響が及ぶか」 6 グループでまとめる。 7 学級全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表を聞き、新たな考えや思いがあったら追加発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点に気付かない生徒には、肖像権を侵害している実例を紹介して説明する。 ・他者の意見を否定したり、同意を求めたりすることのないように指示をする。
まとめ	15分	8 解説動画を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用したトラブルがどういう影響を及ぼすかを知る。情報の漏えい、改ざん、なりすまし等、インターネットの特性から、他者や社会への影響を知る。 9 SNSの利用や、情報社会において自分がどのような行動をとるべきかを考え、ワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">今後、どのようなことに注意してSNSを利用すればいいのだろう</div> 10 学級全体で考えを共有する。 「正しく使うことでインターネットはその価値が出る」 「自分の発信が企業や社会にも影響を及ぼすことがある」 11 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の一員として、社会的な責任があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上に流出した情報は回収できないこと、それが自分や友達の将来に影響を及ぼす可能性があることを説明する。 ・影響が広範囲であり、将来にわたるものであることに気付かせる。 ・リスクや危険性をことさら強調しない。自分の意思で回避できるものであることや、インターネットの利点にも触れ、プラスとマイナスの両面から説明する。

授業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教材として映像を用いたことで、SNSによるトラブルを具体的に捉えることができ、自分自身の生活の場面と関連付けて考えることができた。 ・ワークシートの記述から、「今後、注意すること」として、「ふざけて写真などを公開しない」、「個人情報をおせない」、「自分の将来をしっかりと考えルールを守る」など、SNSを利用する際の具体的な注意点をみいだすことができた。 ・映像が分かりやすくまとめられているため、授業の方向性が大きくずれてしまうことはない。
授業の課題と改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してアンケート調査を行い、指導を続けていくことが重要である。また、インターネットを利用した新たなサービスが次々と登場するので、情報収集に努めていく必要がある。 ・携帯電話やスマートフォンの利用について、学校だけでなく家庭での情報モラル教育を充実させる必要がある。保護者への情報モラルに関する情報提供や保護者と協力して指導に当たるなど、学校と家庭のつながりを大切にして子どもを育てる必要がある。 ・映像はダウンロードできるが、ストーリーミング再生をすると映像が止まることがあるので注意が必要である。

(5) 授業実践報告 5

対象学年	高校 2年生
指導時間名 教科名	教科指導 (科目 国語)
指導項目	メディアの特色を生かして表現する。

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html 参照)			
指導分野	安全への配慮		
コード	d5-1	指導事項	情報社会の特性を意識しながら行動する

授業前の 生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS に関してトラブルに巻き込まれてしまう生徒が増えている。 ・ 個人情報をインターネット上のソーシャルメディアに掲載している。個人情報を公開することの危険性に気付いていない。
期待される 生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット社会は、さまざまな危険が潜んでいることを自覚し、危機管理能力を身に付ける。 ・ 生徒が、情報技術に関する基本的な知識を身に付け、日常のモラルを踏まえた行動をすることによって、SNS などのコミュニケーション手段を適切に利用できることを理解する。
生徒の変容を 促すための 授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラルに関するトラブル事例の動画を視聴させ、その原因や対応策を考えさせることで、生徒一人一人に情報社会における責任や義務を意識させ、正しく判断し行動することの大切さを理解させる。 ・ 生徒に身近な話題を取り上げることにより、軽率な行動が他人へ影響を及ぼすことや、自分の将来にも大きく影響を与える可能性があることを効果的に理解させる。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省委託 情報モラル教育推進事業「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～」 動画教材 10 軽はずみな SNS への投稿, ワークシート

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	10分	1 これまでに発生した情報モラルに関する指導事例の紹介 ・ネット上での他人への悪口 ・ネット上に飲酒や喫煙等の画像の掲載 ・ネット上に個人情報や個人が判別できる画像等の掲載 2 本時のねらいを理解	・自分たちの身の回りで発生する可能性がある身近な問題であることを意識させる。
展開	30分	3 動画の視聴 4 解説動画の視聴と原因の分析 (1) かずきさんの行動の問題点をワークシートに記入する。 (2) かずきさんと周りの人は、今後、どのようになってしまうのかを考えて、ワークシートに記入する。 (3) インターネットのどのような特性によってかずきさんの投稿が広まったのかを考えて、ワークシートに記入する。 (4) インターネットの特性を理解する。 「インターネットの公開性」：世界中の人が見ることができる 「インターネットの記録性」：誰でも簡単にコピーでき、コピーされた情報は削除できない (5) 日常のモラルとの関連性を考え、インターネットへの情報発信で、今後、気を付けるべきだと考えたことをワークシートに記入する。	・どんな問題があったかを考えながら視聴するように伝える。 ・問題点とその理由も記述するように伝える。 ・周囲の人への影響と自分の将来への影響を与える可能性があることに気付かせる。 ・事例動画を2～3回見せて、インターネットの特性や利用に当たっての注意点を理解させる。
まとめ	10分	5 SNSの利用方法の振り返り 「投稿する前に問題がないか考える」 「他人への影響や将来のことも考えて、責任ある行動をとる」 「インターネットの特性など情報技術の基本を理解した上で、日常のモラルを踏まえて行動する」	・学校だけでなく、家庭でも話し合うように伝える。

授業の成果	<p>生徒にとって身近に起こりうる動画を教材として使ったので、生徒は真剣に視聴しており、ワークシートにも積極的に取り組んでいた。動画を使って生徒の視覚に訴えることは、生徒の学習意欲を高める効果があると再認識できた。</p>
授業の課題と改善案	<p>動画視聴や教員の説明の時間が長かったため、生徒の考える時間をもっと多く設定すれば、より効果的に生徒に学習内容を理解させることができる。</p> <p>一つの事例から広く派生して、適切な情報モラルを身に付けていくためには、生徒同士の話し合いやグループワークを通じて、他の生徒の意見を聞き視野を広げるとともに、学んだ知識をさまざまな事例に当てはめて考え表現させることが必要である。</p>

(6) 授業実践報告 6

対象学年	高校3年生
指導時間名 教科名	教科指導 (科目 総合実践)
指導項目	ネット社会に潜むさまざまな問題点について、具体的な事例を通して、トラブルに巻き込まれないようにするための対策をグループでお互いに出し合い、主体的に考えることができる。

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html 参照)			
指導分野	(取り上げる事例によって異なる)		
コード	-	指導事項	(取り上げる事例によって異なる)

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になって、情報機器の扱いにも慣れ、校内の人間関係もほぼ固まりつつある。ただ、ネットを取り巻く環境やトラブルに危機感をもっている生徒は少ないように感じる。 ・特定のグループの中では活発な話し合いができて、他の仲間とは思うように話し合うことができない。
期待される生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会に潜む闇について自分なりに考えて、他の人と意見交換をする中で、更に個人としての考えを深め、解決策やトラブルに巻き込まれない方法を考えることができる。 ・仲間と一緒に協力しあい、成果をまとめることによって、協働的に問題解決に取り組むことの大切さを理解できる。
生徒の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・短編の情報モラルに関するトラブル事例を見て、問題点や解決策を個人で考えさせた後に、グループで協議する。 ・ランダムにグループ分けを行うことによって、自分とは違う考え方に触れるようにする。
利用する資料名 コンテンツ名	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会の歩き方 http://www2.japet.or.jp/net-walk/

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	5分	1 本時の授業のねらいの理解 2 クラスで実施した情報モラルに関するアンケートの集計結果の理解 3 グループ編成 5～6人で構成される6グループに分ける。	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPointを使って、グラフなどにまとめておき、提示する。 • グループはランダムに分ける。
展開	40分	4 グループごとに情報モラルのトラブル事例の視聴 <ul style="list-style-type: none"> • 各グループに割り当てられたテーマを視聴する • 「ネット社会の歩き方」 → 高校生 → 一覧から探すへとページを進める。 5 グループごとに対策や解決策の協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 視聴したトラブル事例について、問題点をできる限り多く挙げ、赤色付箋紙に書き、模造紙に貼る。 (2) 問題点を整理し、類似した問題を集めて貼り直す。(それぞれの問題に小テーマを付ける) (3) 問題に対する対策や解決策(望まれる変容)を、黄色の付箋紙に書き込み、問題を書いた付箋紙の近くに貼り付けていく。 (4) 黄色の付箋紙を集めて、対策や解決策(望まれる変容)のための方法を考える。 6 問題解決に向けたポスターの作成 <ul style="list-style-type: none"> • 5で考えた対策や解決策(望まれる変容)をポスターにまとめる。 7 対策や解決策の発表 <ul style="list-style-type: none"> • 作成したポスターを使って、視聴した事例と協議した内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教材を最後まで視聴せずに問題提起のところまででストップさせる。 • 時間を区切りながらテンポよく進める。 • 対策や解決のための項目を整理して、図やイラストなどを入れて、他の人が理解しやすいように工夫するよう指示する。
まとめ	5分	8 インターネットを利用するに当たって <ul style="list-style-type: none"> • 各グループの発表を聞いて、共通する対策や解決策を考え、インターネットを利用するに当たって、留意すべき点をまとめる。 	

授業の成果	<p>「ネット社会の歩き方」は、身近なテーマを映像と音声で視聴できるため、教材として使いやすく、生徒にとっても分かりやすいものであり、興味・関心をもたせるのに効果がある。また、トラブルの事例がシンプルに表現されているため、生徒が考えやすい。</p> <p>付箋紙を用いたグループワークにより、生徒は主体的に取り組むことができた。繰り返して行うことで、より活発に意見を出し合ったり、協力し合ったり、解決策を深く掘り下げることにつながっていく。グループで協議したことを自分たちでまとめ、発表するというのも、自覚を促すという意味では大切なプロセスだと思う。グループワークの指導の進め方に難しさは感じなかった。</p>
授業の課題と改善案	<p>グループ協議に時間がかかってしまったため、発表の時間が十分に確保できなかった。教材を視聴する時間と付箋紙に書く時間を1時間、模造紙に貼ってグループ分けをして解決策をまとめていく時間をもう1時間、というように2時間かけてやってみるのもよいと思う。</p> <p>また、グループでの発表の後に、全体で振り返りをするることにより、異なる事例でも共通した問題点があることに気付かせることができ、情報モラルに関する幅広い対応力を身に付けさせることができるので、時間を十分に確保することが大切である。</p>